

## 式 辞

本日、ここに、御遺族並びに御来賓の皆様の御参列のもと、令和8年度牧之原市戦没者戦災死者追悼式を執り行うに当たり、先の大戦で亡くなられたすべての御霊に対し、市民を代表し謹んで哀悼の誠を捧げます。

祖国の安泰を願い、愛する家族を案じながらも戦場に倒れられた方々、あるいは、不運にも戦災に遭われ、かけがえのない命を失われた多くの方々に思いを馳せますと、深い悲しみが胸に込み上げて参ります。

また、最愛の肉親を失われた御遺族の皆様の、今なお消えぬ悲しみとむなしさに耐えながら、長い苦難の時を乗り越えて、我が国の復興と郷土の発展に尽くしてこられました、この間の御労苦と御努力に対しまして、深く敬意を表します。

終戦から80年余りが過ぎ、戦時下や戦後の混乱期を知らない国民が、人口の大半を占める時代になってきました。昭和から平成、令和へと時代が代わろうとも、戦争の記憶を次の世代へしっかり継承していくという使命は変わりません。

これまで、我が国は、平和を願う国民のたゆみない努力によって、戦後の荒廃の中から立ち上がり、幾多の困難を乗り越え、世界に類を見ないほどの発展を遂げてまいりました。

現在、世界では今なお、ロシアによるウクライナ侵攻やアメリカとイランにおける武力衝突など国家間の対立や地域紛争が絶えず、人々の生活が脅かされ、尊い命が失われています。一刻も早く、争いが終結し平和が訪れることを、心から願うばかりであります。

私たちは、戦争という悲劇を二度と繰り返さないことを固く決意するとともに、その悲惨さを後世へ語り継いでまいります。

本日は、高校生平和大使の皆さんから平和活動の報告があります。若い世代が自ら平和について学び、考え、その思いを発信することは、平和な未来を築く大きな力となっています。先人たちが積み上げてきた平和への努力や成果へ感謝をし、御英霊の皆様のご郷、牧之原市が、いつまでも「安心して幸せに暮らせるまち」であり続けるため、より一層尽力することを改めてお誓いいたします。

結びに、戦争により亡くなられたすべての方々に哀悼の意を捧げますとともに、御遺族ならびに御参列の皆様のご健勝、御多幸を心からお祈り申し上げまして、式辞といたします。

令和8年5月22日

しづたま  
静 霊 奉賛会牧之原市支部 支部長 杉本 基久雄